

会議報告書（議事概要）

会議の名称	「健康都市おおぶ」推進会議（令和5年度 第2回）
日 時	令和6年2月21日（水）13時30分～15時00分
場 所	大府市役所5階 全員協議会室
出席者 （敬称略）	徳田 治彦（国立長寿医療研究センター） 伊藤 浩明（あいち小児保健医療総合センター） 伴 美津絵（大府市歯科医師会） 榊原 明美（大府市薬剤師会） 山本 陽子（公募委員） 今井 勇治（愛知県知多保健所） 林 史子（大府市小中学校） 岩井 幸子（大府市スポーツ推進委員会） 鷺見 幸彦（認知症介護研究・研修大府センター） 斉藤 雅茂（日本福祉大学） 藤田 静子（至学館大学） 事務局（健康都市スポーツ推進課・健康増進課）8名

内 容

事務局： お忙しいところお集まりいただきお礼申し上げます。本日は、半数以上の委員が出席しているため、「健康都市おおぶ」推進会議条例第6条第2項の規定に基づき、令和5年度第2回「健康都市おおぶ」推進会議を開催する。今回の会議から、新たに知多保健所より今井委員に就任いただいている。始めに、次第の1、市長の岡村秀人から挨拶申し上げます。

1 あいさつ

市長： 初めに、令和6年能登半島地震により亡くなられた方々の御冥福をお祈りする。また、被害を受けられた全ての皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一刻も早い復旧・復興を祈念申し上げます。委員の皆様におかれましても、それぞれの立場で、被災地支援に御尽力を頂いていると思うが、本市においては、消防職員の緊急応援援助隊を1月1日からこれまで第6班まで派遣した。現在は、罹災証明事務に従事する職員や給水車の派遣、寄付金の受付等を実施しているところである。

さて、日頃は本市の健康都市施策の推進に多大なる御支援、御協力をいただき、お礼を申し上げます。明日から始まる大府市議会では、過去最大規模となる令和6年度当初予算について審議いただく。その予算の中からいくつか紹介したい。

- ・認知症を早期に発見し、適切な治療やサポートにつなげることにより、認知症に対する市民の不安の解消を図るため、認知症の診断に必要となる認知機能検査に係る医療費を助成する制度を創設する。関係する病院関係の先生方に

はお世話になるがよろしくお願ひしたい。

- 市民の健康増進や多世代交流の場となる「健康増進・交流拠点」について、「おおぶレインボープラン」に基づく長期欠席の児童生徒の支援拠点となる「第二教育支援センター」を併設した複合施設として新たに整備する。
- 小中学校の給食の質や量を確保しつつ、給食費に係る保護者負担の軽減を図るため、中学校では生徒約 2,800 人分の給食費を無償化するとともに、小学校では児童約 5,700 人分の給食費を据置きとし、増額分を公費で負担する。

高齢者施策とこども子育て応援を両輪としてしっかりと進めていくので、委員の皆様においては、引き続き「健康都市おおぶ」をつくるためのお力添えをいただきたい。本日はよろしくお願ひ申し上げます。

事務局： 徳田会長からも一言挨拶をいただきたい。

会長： 御指名により一言御挨拶申し上げます。市長も話されたが、年初に発生した能登半島地震において犠牲となった多くの方々に謹んで哀悼の誠をささげる。当センターからも今月初めに看護職員の支援第1班を派遣したところで、いまだ余震の収まらない中、病院職員もまた被災者であるという状況の困難さを切実に感じている。災害への備えの在り方について、改めて検討したい。

さて、本年1月1日、共生社会の実現を推進するための認知症基本法、いわゆる認知症基本法が施行された。全国民が認知症を他人事とすることなく、ともに生きる社会の実現を目指すことが法制化された。大府市は既に「認知症不安ゼロのまち」を高らかに謳い、十分な理解と配慮頂いており大変感謝している。一方、昨年末には、アルツハイマー病による軽度認知障害及び軽症認知症に適用とする全く新しい治療薬、レケンビが発売され、認知症治療は間違いなく新しい段階に進んだと思っている。当センターでは、専用の治療室の整備など、この新薬を安全に提供できる体制を整え、2月13日より投与を開始している。投与に先立つ診療により、残念ながら治療の御希望に沿えない場合もあるが、当センター主導で実施した先行研究において、その有効性が確認された J-MINT 型の非薬物療法の提供をはじめ、適切に治療させていただくので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

本日の会議では、盛りだくさんの内容が報告されるが、委員の皆様においては、様々な視点から活発な御発言をお願いしたい。以上、開会の挨拶とさせていただきます。

2 議題

(1)「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進プランについて

事務局：プランの進捗と今年度の取組について【資料1】説明

委員： 自死対策計画での取組について、「メタバース」「オンラインまなポート」「DX」など馴染みのない用語が多く、少し分かりにくかった。

委員： がん検診の受診率が低いのはなぜか。職域で受診している方も含んでいるのか。
事務局： 国の目標値を参考にしているため、目標値がかなり高い。また、どうしても受診者が少ないという現状で課題として感じている。職域は含んでおらず、大府市国保に加入している方が対象。

(2) 健康都市施策の実施状況について

①10か月児食べる機能健診について

事務局： 10か月児食べる機能健診について【資料2-1】 説明

委員： 口腔機能と離乳食の形態に乖離があった児と、育てにくさを感じ育児不安がある等の保護者に相関はあったか。

不安のある保護者は多いので、このような事業でフォローできると安心して子育てができるかと思う。また、子どもが1人目か2人目かでも異なると思うので、そういった統計が取れると、さらに良いモデル事業になるのでは。

事務局： そこまでの相関はまだ追えていないが、今後見てみたいと思っている。月齢どおりの離乳食を進めないといけなく、と不安に思っている保護者に対して、口腔機能の発達に合った離乳食が良いと啓発している段階である。

委員： 特に第一子を持つ保護者からは、こどもの食事の仕方、どういったものを、どのように食べさせればよいのか、と健診時に質問されることがある。

委員： 表を見ると、全体の半数以下しか口腔の発達と離乳食の状況がマッチしていない。どのように介入しているのか。

事務局： 先進的に取り組んでいる健診のため、確立した方法はまだなく、スタッフで試行錯誤している。健診時は、短時間かつスポット的な状況確認になるので、検診結果が絶対ではないことを念頭に置きながら、保護者の支援をしている。また、実際の離乳食の状況で、保護者から色々なエピソードを聞きながら、「変えたほうがメリットが大きいのでは」といったケースについて支援をしており、全員に離乳食の変更を勧めているわけではない。

②大府市子どもの近視予防プロジェクトについて

事務局： 子どもの近視予防プロジェクトについて【資料2-2】 説明

委員： 小中学校ではGIGAスクール構想が始まり、タブレットを授業で使わない日はないため、私たち教員も、タブレットからこどもの目を守るための使い方を意識していく必要がある。また、家庭での使い方を聞くと、姿勢や時間を意識して

いない様子も多く見られるので、引き続き保護者の啓発を続けていく必要がある。
共和西小学校の学校保健委員会の取組については、とても良いので他の学校にも広げていきたい。

委員： 素晴らしい取組みだと思うが、全国平均と比較して、大府市の目の悪い子の割合がかなり高い。考えられる要因は何か。

事務局： プロジェクトメンバーに確認したところ、都心部になるほど目が悪い子が多いという統計がある。外遊びが目が良いという研究結果が出ているが、外遊びができる環境や、登下校に要する時間、放課後の過ごし方など、都心部と田舎では異なっており、近視の割合に影響を与えていると考えている。

委員： 子どもたちの近視が増えているが、やはり学校でのタブレット使用は大きい要因だと感じた。

③健康経営の推進等について

事務局： 健康経営の推進と健康プログラムの実施について【資料2-3】 説明

委員： 大府市の事業はよく活用しており、健康経営に取り組み始めて5年になる。県からの表彰もいただき、このまま継続していきたい。特定保健指導の受診率について、社内では常に100%を目指しているが、大府市の受診率は県平均と比較してどうか。

事務局： 県内3位の実施率である。

委員： 当社では、特定保健指導の対象者を40%から30%まで減少させたことが、健康経営の一番の成果だと思っている。

健康経営優良法人認定取得支援補助金については、新規認定取得事業所が3社あるということだが、認定のメリットを感じない事業所もいると思うので、傾向をつかんで施策に反映してほしい。

④介護予防のための取組について

事務局： 介護予防のための取組について【資料2-4】 説明

委員： 認知症の予防に関しては、運動や健康講座、交流など、多方面からのアプローチし、社会活動、身体活動、知的活動の全てを刺激することが重要。結果を確認しながら、効果的に健康長寿塾を継続してほしい。

会長： 健康長寿塾認知症予防強化コースは、長寿医療研究センターのJ-MINT研究をベースにしたもの。軽度認知障害及び軽症認知症に相当するようなケースがかなり多いことが分かってきており、このような方々をどのように医療につなげるかということも課題である。

委員：健康長寿塾認知症予防強化コースは、対象が65～85歳とのことだったが、もっと早い年代で見つける必要があるのではないか。

委員：この事業の対象者は、症状が出始めている方もしくはすでに認知症になっている方なので、どうしても年齢層は高くなる。確かに、若い人たちの認知症や軽度認知障害を見つけるための仕組みは、この事業とは異なる形で作る必要があると感じている。

⑤自殺対策SNS等相談事業の開始について

事務局：自殺対策SNS等相談事業の開始について【資料2-5】 説明

委員：ライフリンクが受けた相談、対応のうち、大府市民がどれくらいいるかはわかるのか。今後、自殺件数が減ってきたときに、この事業の効果だと検証するためには数字があったほうが良いと感じた。

事務局：まだ把握はできていない。

(3) 新型コロナウイルスワクチン接種状況について

事務局：【資料3】 説明

(その他質疑)

委員：全体的なことだが、大府市の事業は、大学や企業、法人等と連携して実施している事業が多い。市の施策として柔軟性が高いという印象を受けるが、どのような背景があるのか。

事務局：健康都市として取り組んできた期間が長く、これまでうまく発信もしてきたため、企業や団体から提案をいただくことが多い。市としても、予算をかけずに様々なことにチャレンジできるので、良い関係を築けていると感じている。

3 その他

事務局：今回の会議をもち、委員の改選となる。2年間、活発な御意見、御議論をいただき、深くお礼申し上げます。引き続き委員を引受けていただく方については、次年度以降もよろしく願います。最後に徳田会長から一言御挨拶を願います。

会長：今年度をもち、本会議の委員を退任させていただくこととなった。思いがけず会長に指名され10年以上務めることとなり、かつて地域医療を志した私にとって、得難い貴重な経験となった。会議では、皆様の「健康都市おおぶ」の実現にかける熱意がひしひしと伝わり、嬉しく心強く思っていた。長い間お世話になり、誠にありがとうございました。

事務局：本当に長い間、本会議の会長としてご尽力いただき、深くお礼申し上げます。また、今回で退任される委員の皆様にも、本当に活発な御意見を頂きまして、改め

てお礼申し上げます。今後も、様々な団体と連携しながら、健康都市施策を効果的に推進していきたい。

事務局： 以上で、令和5年度第2回「健康都市おおぶ」推進会議を終了する。

以上